

## 「アルテリッカ特別講座」講師プロフィール（２）

- 1月17日（水） 菅原敬子 すがわら・けいこ（麻生区文化協会会長・  
麻生童謡を歌う会会長）



1936年8月30日山形県生まれ。8歳から琴を習い、中学高校では音楽部に所属した。岡市で小学校の教員を務めた後、結婚を機に20代で横浜へ。教員不足だった川崎市の百合丘で小学校の教員になった。教職員組合で副委員長を務めるなど、女性教諭の権利獲得のために奔走。87年の市議選に出馬して初当選。以後、2007年まで5期20年、市議を務めた。01年の4期目には川崎市で初の女性副議長に就いた。麻生区文化協会会長としても「あさお古風七草粥の会」、「アルテリッカしんゆり」はじめ、麻生区の文化振興に長年尽力してきた。「麻生童謡をうたう会」会長も務めていてザルツブルグ・ハンガリー・スロバキア・韓国・インドなど海外へ出向き、日本の童謡を歌うなど国際親善にも貢献してきた。

聞き手：クアットロアリア（藤原歌劇団） 男性4人ヴォーカルグループ（メンバーの中から一人が聞き手に）。ジャンルを超えたレパートリーと美しいハーモニーで人気。2024年アルテリッカ5月6日スプリングコンサートに出演。

- 2月7日（水） 馬場あき子 ばば・あきこ（歌人・能作家 研究家・文化功労者）



1928年1月28日東京に生まれる。小学生時代に韻文の面白さに目覚め『古今集』や『平家物語』の韻律に強く心を揺さぶられた。1947年、昭和女子大学文科在学中に、窪田章一郎に師事し師の主宰誌「まひる野」に入会。また、時を同じくして能の喜多流宗家にも入門。55年に初歌集『早笛』を刊行。61年「葡萄唐草」で逍空賞をはじめ数多くの賞に輝く。教員生活を送りながら、夫の岩田正とともに短歌結社「かりん」を主催。『朝日新聞』などで選者を務める。能作家として新作能「晶子みだれ髪」（1995年）、「小野浮船（おののうきふね）」（2004年）、「利休」（17年）など発表。文化功労者、旭日中綬章、日本芸術院会員。21年に全27歌集の1万首を収録した『馬場あき子全歌集』を刊行。本年、自身の1年を追ったドキュメンタリー映画『幾春かけて老いゆかん 歌人馬場あき子の日々』が公開され評判を呼んでいる。アルテリッカ2024年5月3日「人間国宝の競演」に解説者として登壇予定。

聞き手：山本則重 則秀（能楽師・狂言方） 大蔵流狂言、山本東次郎家に兄弟として生まれる。狂言を通して馬場とは日頃より親交を結んでいる。

- 2月16日（金）ふじたあさや ふじた・あさや（劇作家・演出家）



1934年3月6日東京生まれ。旧制麻布中学にて、後に演劇界・映画界で活躍する小沢昭一、加藤武、大西信行、福田善之ら諸先輩の影響を受け演劇を志す。早稲田大学に進学し、早大劇団自由舞台に入団。その後、劇団仮面劇場を結成する。1965年 劇団三十人会に参加。

1973年からフリーで、前進座、文化座、青年劇場などに戯曲を提供。一方では、児童青少年演劇・音楽劇などの脚本・演出も手がける。1975年「さんしょう太夫」で斉田喬戯曲賞を受賞。1992年「しのだづま考」で芸術祭賞を受賞。2007年川崎市文化賞。2012年、地元・麻生区を拠点に市民劇団「劇団わが町」を主宰、芸術監督として刺激的な舞台を精力的に発表している。2924年アルテリッカ公演としては、川崎が生んだ絵本作家かこさとの生涯に材を得た「かこさんのみた夢」、人形劇と浪曲によるあらたな創作「きつね森の山男」と2本の演出作品が控えている。

対談：藤嶋昭（東京理科大学 第9代学長 川崎市名誉市民 かこさとし研究家） 科学者として光触媒の発見など世界的功績で知られる。かこさとしとは、ともに東京大学工学部卒業という縁もあり深い親交があった。